

長久手市歯と口腔 の健康づくり推進 条例

ができました！

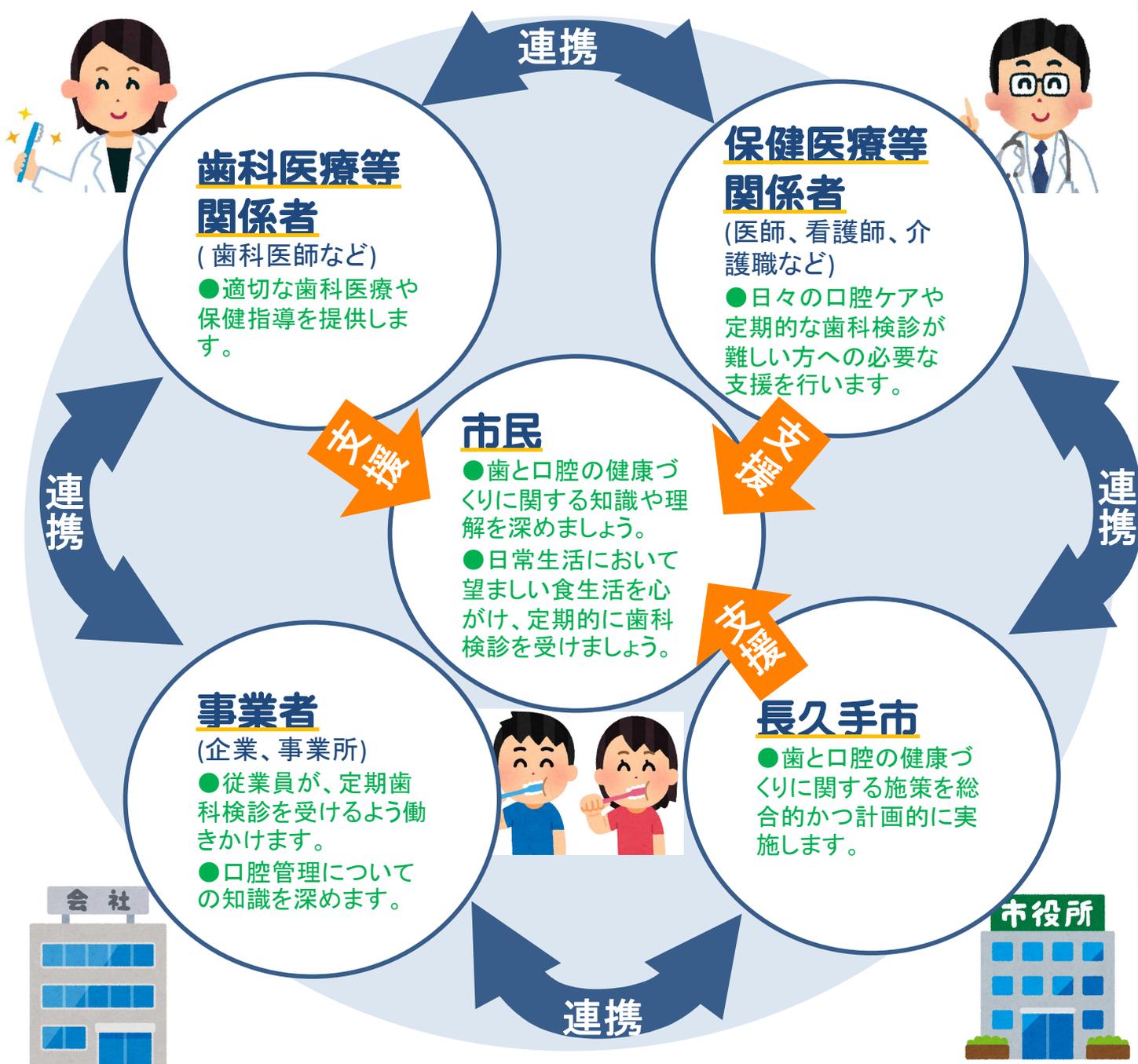
令和2年4月1日施行



歯と口腔の健康は、食べる、話す、表情をつくるなど、毎日をいきいきと過ごすために欠かすことができません。

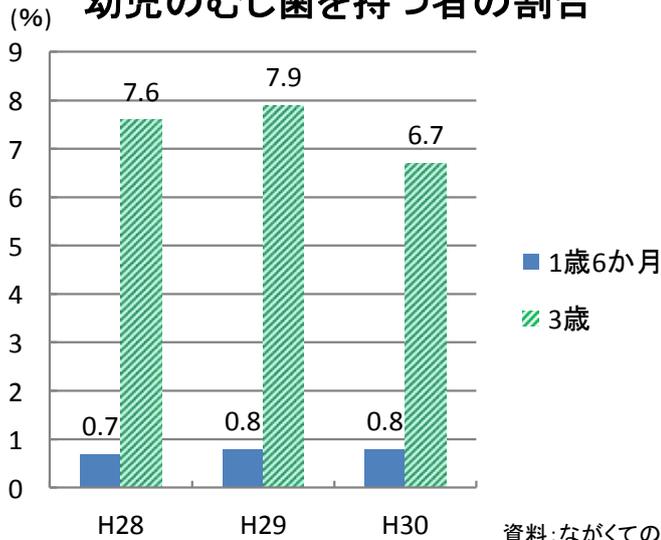
市民一人ひとりが健康で質の高い生活を営めるよう、市民の皆さん、歯科医療等関係者、保健医療等関係者、事業者の役割や、長久手市の基本施策などが定められました。

市民の皆さん、歯科医療や保健医療等に関わる皆さん
みんなで歯と口腔の健康づくりに取り組みましょう！

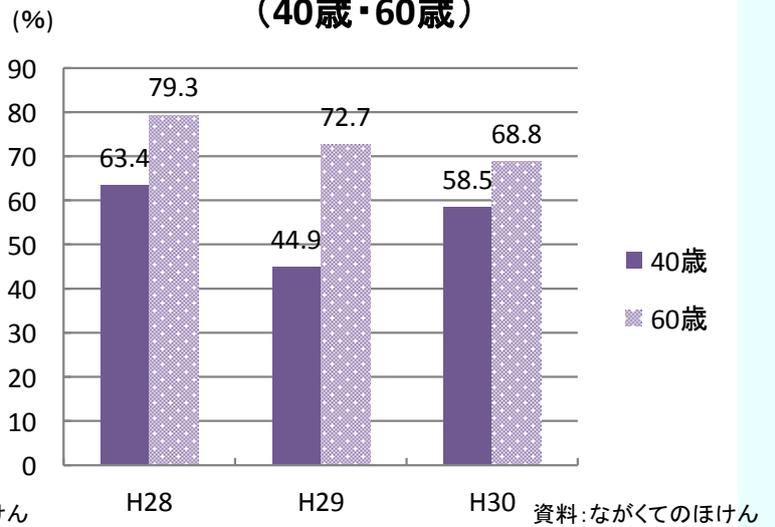


● 歯と口腔の現状 ●

幼児のむし歯を持つ者の割合



歯周炎を持つ者の割合 (40歳・60歳)



- 幼児のむし歯は、1歳6か月児に比べ3歳児で割合が高くなっています。
 - 一方、歯周炎を持っている大人は、年齢が上がるとともに増加傾向にあります。
- ⇒ 定期的にかかりつけ歯科医で歯科検診を受けましょう。

歯と口腔の健康は、全身の健康に深く関わっています。
歯と口腔の健康づくりに取り組み、健康寿命を延ばしましょう！

オーラルフレイル

噛む力など口の機能が衰えることを指します。口腔機能の衰えは、食欲の低下、さらには全身の機能低下へとつながる可能性があります。

認知症

歯が減って噛む力が低下すると、脳への刺激が減り認知症の危険性が高まると言われています。

糖尿病

高血糖による血管のダメージで歯周病が悪化します。また、歯周病になると分泌される炎症物質もインスリンの働きを妨げ血糖値が上がると言われています。

誤嚥性肺炎

飲み込む力が低下すると、歯周病菌の含まれた唾液が気管に入り込み、肺炎を起こすことがあります。

早産・低体重児出産

妊娠中はホルモンの変化などにより、歯周病になりやすくなります。歯周病の炎症物質により早産・低体重児出産につながることもあります。



● 長久手市からのご案内 ●

かかりつけ医を持ち、定期的に歯科検診を受けることで、8020、8520、9020を目指しましょう。

- ・長久手市歯周病検診
- ・長久手市妊産婦歯科健康診査
- ・長久手市幼児歯科健康診査

実施しています。

長久手市歯周病検診

検索

長久手市母子保健

検索